

# 少年

第421号(1) 令和3年4月(卯月)発行



山梨県警察本部  
生活安全部 少年・女性安全対策課  
甲府市丸の内1-6-1  
055-221-0110 内線3082  
少年対策官 山岸正人

## 心をひらく

「この1年、多くの困難があり、大切な多くのものを失いました。答えのない悲しみを受け入れることは苦しくてつらいことでした。同時に多くのことを学びました。あたり前だと思ふ日常は誰かの努力や協力で成り立っているということ。失った過去を未来に求めて希望を語り、実現する世の中に。穏やかで鮮やかな春、そして1年となりますように。」これは、選抜高校野球の選手宣誓の言葉。感謝、感動、希望…、私たちに様々な思いを届けてくれました。新年度がスタートしました。新型コロナウイルスの感染は予断を許さない状況ですが、どんなときでも希望を胸に、前向きな気持ちでその出来事を受け止め、新たな仲間とともにアイデアを出し合い、「今の自分たちができること」に努力して欲しいと思います。

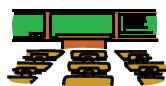
### 「自覚と責任、そして認め合うこと」

約100年前、ドイツの心理学者リンゲルマンが綱引きの実験を行った。その結果、1人だけで綱を引いたときの力を100%とすると、2人で引くと1人あたり93%、5人では70%、8人では50%になってしまうことがわかった。この実験から、集団で作業を行う場合、メンバーの人数が増えれば増えるほど一人あたりの貢献度が低下するということが確認された。この現象は社会的な手抜き（リンゲルマン効果）と呼ばれ、集団になると「自分がやらなくても誰かがやるだろう」と、無意識のうちに手抜きをしてしまう、人間心理からおこるといふ。

数年前、NHKの番組でも同様の実験が行われ、5人のボディビルダー、5人のサッカー選手においても、やはり同じ結果となった。ここで興味深いのはこの後の実験であった。日本綱引き連盟のプロの集団で同様の実験を行った。すると、どの場合でも社会的な手抜きはおきず、全員が高いパフォーマンスを発揮した。集団になれば必ず社会的な手抜きがおこるとは限らなかったのだ。**自分の役割に自覚と責任を持ち、目標を明確に共有したチームはどんな状況においても高いパフォーマンスを発揮する、**というわけだ。

またこんな実験も行われた。チアリーダーがボディビルダーのチームを応援した。すると応援された5人は1人の時と同様の力で綱を引くといった結果となった。応援によっても社会的な手抜きがおきないということがわかったのだ。集団の中で、一人ひとりが**100%の実力を発揮し続けるには、自分のことを評価してくれ、また、励ましてくれる存在が不可欠**ということである。

新しい仲間と出会い、新たな環境での生活がスタートした。



一人ひとりがチームの一員としての自覚と責任を持つ。そして、目標を共有し、お互いを認め合い、最大のパフォーマンスを発揮できるチームを作っていきたい。「自分ひとりくらいは」ではなく「自分がやらなければ」という当事者意識をもって。  
出典：釘原直樹「人はなぜ集団になると怠けるのか」中公新書

### 「新友」

いつもベッタリ一緒にいるわけではなくても、気持ちが通い合っている気がして落ちつく。それが友だちとのよい距離感である。古代中国の思想家、荘子はこんな言葉を残している。「君子（くんし）の交わりは淡きこと水の如し、小人（しょうじん）の交わりは甘きこと醴（あまぎけ）の如し」。「君子」とは、教養と徳を供えた人格者のこと。君子は水のように淡泊であっさりとした交際をする。それに対して、「小人」、ちっぽけな心の人、べたべたとした甘酒のような交際をする、というわけだ。甘酒は、最初はおいしいと思うかもしれないが、すぐに飽きる。水は飽きることがない。淡泊で飽きないからこそ、長く続くのである。

福沢諭吉「学問のすゝめ」の言葉。「一旦（いったん）の偶然に人に遭うて、生涯の親友たるものあるに**あらずや**」と述べている。10人の人と出会って、その中でたまたま1人親しい友が得られることができれば、20人と出会えば、2人の親しい友が得られることができる。いろいろな人と出会い、気軽に話せる相手がたくさんできれば、それだけ自分にじっくりくる友だちとめぐり合うチャンスも増えるわけである。「親友」でなくてもいい、まずは新しい友、「新友」を見つけなさいと語っている。「学問のすゝめ」の巻頭の言葉、『**天は人の上に人を造らず、人の下に人をつくらず**』と云えり』は有名であるが、しめくくりの言葉は、「**人にして人を毛嫌ひするなかれ**」。人間のくせに、同じ人間を毛嫌ひするのは、よろしくないよ、というメッセージである。

いろいろな人たちとの出会いは、自分自身を成長させるチャンス。友達になることを気楽に考えて、いろいろな人たちとの交流をしていくことが大事である。

出典：齋藤孝「友だちってなんだろ」誠文堂新光社

「傾聴する」相手の心をひらくには、話すことより「落ちついて話を聴く」ことが必要となります。相手の話をよく聴いてこそ、その人を理解できます。耳、目、心を傾けて相手の気持ちに寄り添うことが心の扉を開けてもらう第一歩となるはず。

発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

[https://www.pref.yamanashi.jp/police/p\\_syonen/shonenkoho.html](https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html)

# 子供の安全・安心を守るために

いよいよ新年度、子供が安心して新生活をスタートできるよう、家庭・学校・地域で力を合わせ、生活環境を整えていきましょう。

## ① 通学路の点検を！

休日等を利用し、危険箇所や子供110番の家などを親子で確認しましょう。

## ③ 良好な人間関係を！

嫌がらせ、悪口を言わない、メール等に絶対書かない。部活動・学校行事等に積極的に取り組ませ、学級、学年、地域の中で良好な人間関係が築けるようサポートしましょう。

## ⑤ 交通ルールを守る！

- 歩行中・自転車乗車中の交通事故防止（自転車は、安全利用五則の周知徹底）
- 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 二輪車の交通事故防止

## ② サイバー犯罪に注意！

携帯・スマートフォン等におけるフィルタリングの設定をはじめ、家庭でしっかりとルールを決めましょう。

## ④ 危機管理の徹底を！

学校では、不審者及び地震・災害等の危機管理体制づくりと関係機関との連携体制の確立を。家庭・地域では、避難場所の確認や家族の集合場所の確認を。

## ⑥ 新しい生活様式を 実践しよう！

身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いの感染防止の3つの基本に努めよう。

# 16名のスクールサポーター！



警察と学校のパイプ役である山梨県警察スクールサポーターは平成19年から活動しています。12警察署の他に、少年・女性安全対策課に4名配属されており、合計16名です。

主に、①少年の非行防止及び立ち直り支援活動 ②学校等における子供の安全確保 ③非行・犯罪被害防止教育の支援 ④地域安全情報等の把握及び提供等の活動を行います。

具体的には、学校訪問による生徒指導支援、不審者侵入対応訓練、児童・生徒及び教職員対象の防犯講話、教職員等との街頭補導活動、校舎内外の不審者・不審物発見活動等を行っています。



学校現場からは「悩みを相談できる」、関係機関からは「情報提供が地域の見守り活動のきっかけになった」等の声が寄せられています。今後も学校、地域、警察との連携強化を図りながら、子供が安心して生活できる環境づくりを目指して活動していきますので、御協力をお願いいたします。

全国地域安全運動等に使用する  
「ポスター」「標語」  
「青パト活動状況の写真」

**募集**

を募集しています！締切：6月3日(木)  
詳しくは山梨県防犯協会のホームページをご覧ください。<http://bouhanyamanashi.sakura.ne.jp/>

甲府市丸の内二丁目14番13号  
公益財団法人 山梨県防犯協会  
電話 055-235-0110

## ヤングテレホンコーナー

非行、交友、学校問題等、少年の悩みや困りごとについて、少年補導職員や警察官が必要な助言・指導を行っています。少年自身はもちろん、保護者の方からの相談も受け付けています。



☎ 055-235-4444

受付時間 月～金曜日 午前8:30～午後5:00